

学校教育だより

習志野市教育委員会



<http://www.city.narashino.lg.jp/kosodate/kyouiku/gakkyodayori.html>

習志野市鷺沼 2-1-1

電話 047-451-1132

平成29年7月19日発行 NO.85

チーム習志野・チーム学校

確かな歩み

(1学期を振り返って)



谷津南小学校バス通学：奏の杜三丁目停留所

文科省がめざすチーム学校の考え方

10年後に「チーム学校」を実現させるというのが、文部科学省の構想です。学校の職員全体に占める教員の割合は、現在82%であり、これを7割程度まで下げることを目指しています。欧米並み（アメリカ56%、イギリス51%）とはいかないまでも、学校は多彩な人々の支えによって学校全体としてのチーム力を上げていくことが求められています。今回の「学校教育だより」ではチーム習志野・チーム学校としての取り組みに焦点をあてて、1学期の教育活動を振り返ります。

【第85号 目次】

- ◆バス通学の安全指導の取り組み～谷津南小～ 2
- ◆地域と共につくる運動会～秋津小～・・・ 2
- ◆第38回 オール習志野歩け歩け大会・・・ 3
- ◆若手教員を育てるキャンパス研修～第三中～・・・ 3
- ◆スマイル教室～大久保小～・・・ 4
- ◆学校支援員～第二中～・・・ 4
- ◆確かな技術で学校環境を支える 技労士技能研修・・・ 5
- ◆チーム習志野の一員として
キラット・ジュニア防犯隊誕生会・・・ 5
- ◆外部団体との連携授業・谷津干潟の日フェスタ・・・ 6

地域や地域人材と共に学校を支える

バス通学安全指導の取り組み ～谷津南小～

今年度、奏の杜から谷津南小学校へ通学する児童は100名を超えました。日々の安全を支えているのは安全整理員の方々と、朝6時50分ごろには、子ども達をバス停で迎えています。バス停で待っている時、乗車・降車させる時だけでなく、1～2人が一緒にバスに乗り、バス内でも子ども達を見守っています。

6月1日に行った交通安全教室は、京成バス（株）の協力により、校庭にバスを3台乗り入れ、「内輪差による危険」「バスの近くからの横断による危険」など人形を使って確認しました。また、バスの運転席に座り、運転席からの死角を体験することにより「運転席に座ったら、あんまり下の方の人は見えなかったのだからバスの下は見えないんだ。近づきすぎちゃダメなんだ（2年生感想）」など、実際に体験しなければ感じることができない貴重な体験をすることができました。

また、昨年度バス通学の児童が少しでも早く学校内に入ることができるよう東門が設置されるなど、安全整理員、京成バスの方々と、保護者、教育委員会、学校等みんなで子ども達の安全を守っています。来年度、再来年度とバス通学児童が増える予定ですがこれからも、チーム谷津南小でバス通学の子どもの安全を守っていきます。
(谷津南小学校：教頭 安村 和晃)



交通安全教室の様子



地域と共につくる運動会～秋津小～

「秋津小学校と地域の大運動会」この名前こそが、本校の運動会の特色を表しています。

開会式・閉会式の入場行進にも、地域の方々が「地域」というプラカードを持って入場します。競技種目としては、学年種目に地域の方が参加する種目が3つ。地域や保護者、職員が行う種目が4つ。会場にいる全ての人々が参加できる種目が2つあります。



秋津小伝統の「ソーラン節」です。地域の民謡サークル「どんつく」さんの三味線演奏と歌に合わせて、5・6年生が演技をします。会場中に「どっこいしょ どっこいしょ」のかけ声が響き渡ります。



職員1チームと地域・保護者の8チームが対決する「とんぼりレー」です。今年で3年目となる競技ですが、年々参加チームが増えてきています。今年度は1チーム8人編成、総勢72名の大レースとなりました。注目を集める種目です。

準備計画や競技については、地域や保護者・職員の代表者で月1回開催される「パートナー会議」やPTA役員会で話し合い、お互いに共通理解した上で当日を迎えます。児童や保護者だけでなく、地域のみみんなが笑顔になる「みんなのあきつ」の運動会は秋津小の自慢です。
(秋津小学校：教務主任 渡辺 雅和)

学校職員の連携とモラールアップ

第38回 オール習志野歩け歩け大会

6月4日（日）に『第38回オール習志野歩け歩け大会』が開催されました。「初夏の習志野を爽やかに」をスローガンに行われたこの大会には、習志野市内はもとより、近隣各市からの参加もあり、総勢219名が集まりました。習志野市の小学校からは、津田沼小学校、谷津南小学校、袖ヶ浦東小学校、東習志野小学校の4校の教職員が参加し、爽やかな汗を流しました。

袖ヶ浦東小学校は校長先生をはじめ7名の職員が参加、小出校長先生からは「職員の連帯感を高め、他の学校の先生方や地域の方々との交流も大切にしたい。」と笑顔で話していただきました。



職務に関する話や互いの趣味に関する話など、様々な会話を楽しみながら和気藹々と歩くことができました。同じ時間を共有し、会話を楽しむことで、お互いのことをさらに知ることができたように感じます。「互いを知る」ことで職員間の人間関係が深まり、それこそが「職員の連帯感」の向上につながると考えます。「全ては子どもたちのために」一丸となって職務に励む上で、モラールアップを図るとてもよい機会となりました。

（袖ヶ浦東小学校：教務主任 芦川 基樹）

若手教員を育てるキャンバス研修 ～第三中～

第三中学校では経験5年以下の先生方を対象に「キャンバス研修」を行っています。「キャンバス研修」は昨年度、対象だった先生方がつけた名称で「真っ白いキャンバスにこれから経験を通して沢山の色を塗り重ねていく」という思いが込められたものです。

内容としては、毎学期ごとに取り組みたい内容と反省、教務部からの話等が中心になりますが、その他にも学級経営や生徒指導について自分たちが今、困っていることを話したり、情報交換やモラールアップ研修を実践するなどの取り組みを行っています。

若い先生方が中心になって進める取り組みなどを通して、経験年数を越えた交流ができ、職員全体のまとまりを深めています。『チーム三中』として、これからも教職員一人一人の良さや特徴を活かして様々な教育活動を推進するとともに若手の育成を図っていきます。

（第三中学校：教務主任 三橋 直行）



「子ども達の心」に寄り添って

スマイル教室 ～大久保小～

スマイル教室はボランティアによって運営されている、放課後の子ども達の居場所です。スタッフの合志久恵さんは「宿題をする横に座っていたり、ただそこにいるだけで子ども達は喜んでくれます。それがありがたくうれしいです。心がけていることは寄り添うこと。また、学校の先生方に様子をお伝えし、連携をとって子ども達のサポートをしています。」と語ってくれました。スマイル教室では、宿題や読書に励む子ども、友達との外遊びに興じる子どもなど様々な姿が見られますが、どの子も安心していきいきと放課後を過ごしていたのが印象的でした。



百人一首を楽しむ子ども達

4～6年生までの子ども達の放課後の居場所づくりとして「スマイル教室」を開き、だれでも自由に参加できるようにしています。15時から16時30分まで図書室を活用し、昨年度は25回実施し、延べ160人の子ども達が利用しました。教室運営のボランティアの方々は、元保護者の方をリーダーに、7名の方が交代で対応してくださっています。子ども達を温かく見守り、子ども達が安心して過ごせる居場所づくりをしていただいております。

(大久保小学校：教頭 東 秀行)

学校支援員 ～第二中～

学校支援員さんは、支援の必要な子ども達の授業参加や学校生活を支える重要な役割を果たしています。現在、習志野市の小・中学校では延べ86名の支援員の皆さんが、子ども達のために仕事をしてくださっています。今回は第二中学校で学校全体の支援を担当する室伏 洋子さん取材し、お話を伺いました。取材した日は相談室で学習する子どもの支援をされていましたが、子どもの今の気持ちを大切に、温かく支えていたのが印象的でした。



第二中学校 室伏 洋子 さん

子ども達に接する上で大切にしているのは寄り添う気持ちです。時間がかかるかもしれませんが、心を閉ざしていた子が、あるとき心を開いてくれたことがその原体験になっています。また、先生方や家族の方と考え方や情報を共有し合い、「みんなで子育てしましょう」というスタンスでいることも大切にしています。中には、時や場に応じて、いきいきした表情を見せる子もいます。その姿をとらえ、伝えるなど、関係する者どうしを結ぶ役割も果たしていきたいと考えています。(第二中学校：室伏 洋子)

確かな技術で学校環境を支える 技労士技能研修

6月20日（火）鷺沼小学校で実施された技労士技能研修を取材しました。技労士の皆さんは、子ども達が安全・安心で学びやすく、先生方が指導しやすい環境を常に整えてくださる最前線にいる方々です。この日は30度近い暑さの中、玉のような汗をかきながら、体育館の屋根の上まで伸びた桜の木の剪定を行っていました。校舎3階部分の高さの幹を木の成長を妨げないように慎重に切り落としていました。落とした幹や枝のそろえ方や運び方にも気を配り、いかに効率よく作業を進められるかを皆さんで研修されていました。他の研修内容では、溶接や刃物研ぎ、トイレの水道修理の研修などもあります。私達は、整えられた環境に感謝して日々過ごしたいものです。

樹木の剪定の研修



この仕事の一番のやりがいを感じる時は子ども達の喜びの声を聞けたときです。「あっ、きれいになった。」「明るくなった。」という声がとても励みになります。心がけているのはけがに気をつけて仕事をすることです。骨折など病院に行かなければいけないけがに見舞われることもあります。また、子ども達の学習の妨げにならないようにすることにも常に気を配っています。

（第四中学校：藤松 秀男）

チーム習志野の一員として キラット・ジュニア防犯隊誕生会

6月17日（土）キラット・ジュニア防犯隊誕生会が行われました。市内各小・中学校の児童生徒84名が市庁舎に集い、防犯に対する団結を誓いました。教育長は「青色は正義を意味する色。正しいことは正しいと言えるようになってほしい、正義の心を大切に」と話され、配布されたお揃いの青色のジャンパーに身を包んだ子どもたちは、よりたくましく引き締まった表情を見せていました。キラット・ジュニア防犯隊が発足して13年目を迎え、この間の犯罪件数は1/3に減少したそうです。子どもたちの防犯意識と正義感の更なる高まりと広まり、そしてこれらを通して、いじめ撲滅にもつながっていくことを期待します。

市庁舎グランドフロアーにて



【児童の抱負】

私の「キラット・ジュニア防犯隊」での抱負は、「犯罪ナシ！キラッと輝く習志野市へ！！」です。

私たちの街にも、危険はたくさん潜んでいます。例えば、学校の帰り道やひと気のない所などは、街の中にたくさんあります。

私は、皆さんがこの街のどこにいても安心できるような街にしたいくて、キラット・ジュニア防犯隊に入ることになりました。これから、キラット・ジュニア防犯隊の皆さんと、私たちの街を信頼されるような素敵な街にしていきたいです。

犯罪は、犯罪者のわがままな気持ちから生まれてきます。私は、そんなわがままな気持ちをこの街から消していきたいと思います。キラット・ジュニア防犯隊の皆さんと協力し合い、皆さんが大好きな犯罪ゼロの街にしていきたいと思います。

（向山小学校：5年 中嶋 唯さん）

外部団体との連携授業

習志野市立習志野高等学校

3年生対象の理科の授業として、講師を招いて連携授業を行いました。今年、日本原子力文化財団、かずさDNA研究所、東邦大学の3団体にお願いしました。

日本原子力文化財団の講師からは、放射線の構造から種類、及び作用について楽しく講義が行われました。東邦大学の講義は、いろいろな波長の光を当てることによって、物質がどの元素で作られているかを分析する授業をわかりやすく教えて頂きました。中でも、かずさDNA研究所の授業では、自分のアルコール耐性についてのDNA型を実験で調べる授業が展開されました。生徒達は、パッチテストで自分のアルコール耐性はおおよそわかっていたものの、DNAの解析結果によって科学的に証明されると思わず納得する声上がるなど、熱心に取り組んでいました。

普段の授業では経験できないことを学習できたことが、進路選択にも大いに役立つことを期待します。(教頭：都丸 輝信)



谷津干潟の日フェスタ

～つながろう みちかな海と わたしたち～

6月10日(土)谷津干潟の日フェスタ(5月3日～6月11日)の取材のために谷津干潟自然観察センターを訪れました。このフェスタは、ラムサール条約登録(1993年6月10日)湿地である谷津干潟の保全を図ることを目的に開催されています。6月10日～11日は延べ9104名の方々が谷津干潟を訪れ、習志野市に残る貴重な自然に触れあっていました。また、地域の小・中・高・大学生が干潟の研究・音楽・ダブルダッチ・演舞を披露するなど、フェスタを盛り上げる担い手としても大活躍しました。今後も谷津干潟が子ども達の自然保護への関心と感性を豊かに育てる場であってほしいと思います。



よしず作り体験教室

ホンビノス貝を探し出せ

編集後記

「チーム学校」は、学校の内外の力を結集して、子ども達を健全に育てようという社会の願いの表れです。今の小・中学生が中心となる2030年ごろの社会を、彼らが心豊かにたくましく生きる力を育むためにはできるだけ多くの方からの学びを得る方がよいと言われます。また、その子の良さを1つでも多く見出すためにも、複数の目で、一人一人を見ていくことが大切です。情報を共有し、どのような指導や支援が重要かを見極めていくためにも「チーム学校」のしくみを今以上に整えていかなくてはなりません。今月号の発行にあたって、たくさんの皆様に御協力をいただきました。取材や原稿の提供をこころよくお引き受けいただきまして、誠にありがとうございました。